

令和3年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

音楽

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
1年	○感染症拡大防止対策に連動して、器楽の学習が全く実施できていない。	○鍵盤ハーモニカの学習が実施可能となったら、すぐに遅れている内容に着手する。その際は、内容を厳選し、時数と照らし合わせながら全児童が題材の評価規準をクリアできるように計画的に実施していく。	○1年間通して状況が改善されず、実施できなかった。未実施分は次の学年に持ち越しの予定。
2年	○器楽の学習予定が大幅にずれ込むのと同時に、児童間の習得状況にばらつきが見られる。	○鍵盤ハーモニカの学習が実施可能となったら、1年次の学習内容を再度扱いながら2年次の学習を並行して進める。児童の現状把握のための見取りの手立てを工夫して設定し、こまかく児童の習得状況を確認しながら全児童の進捗状況を合わせて学習を進められるようにする。	○1学年と同様、年間通して実施不可能であった。2年分の学習内容の未実施分は今後検討していく。
3年	○器楽の学習が大幅に遅れ、それに伴い児童間の習得状況にも差が見られる。	○文京区版学校感染症対策ガイドラインの範囲内で、学習を進める中で、スモールステップを設定し、全員が題材の評価基準をクリアできるようにするとともに、各児童の状況を見取りの手立てを設定する。	○今後の器楽の学習の土台となる学習内容がほとんど実施できていない。次年度へ持ち越しの予定。
4年	○感染症拡大防止対策に連動して、器楽の学習の内容の定着が不十分である。	○4年生の学習を進めるのと並行して3年生までの学習も復習として扱うことで、全児童が知識や技能を確実に習得できるようにしたり、そのために必要な思考力・判断力・表現力を深められるようにしたりする。また、短時間で児童の現状を把握するための指導の手立てを工夫する。	○3学年に引き続き4年生としての学習もほとんど実施できていない。次年度へ持ち越しの予定。
5年	○関心が高い児童が多いが、技能面での差が大きい。	○学習に対する積極的な雰囲気は今後も大切にしていく。技能面の課題は、教師が指導するだけでなく、構成メンバーを考えたグループ活動を取り入れるなどして、児童間での教え合いを活用する。	○活動形態に制限があったため、グループ活動などは実施できず、一斉指導中心であったが、歌唱については予定通り進められた。
6年	○落ち着いた雰囲気に取り組めるが、積極性をさらに高めることが課題である。	○グループ活動やペア学習などの少人数での活動を意図的に取り入れることで、各児童の演奏に対するウェイトを上げることで積極性を促す。また、積極的な意識をもてるような、より明確な演奏に対する思いや意図を意識させる。	○5学年と同様、一斉指導中心で進めたが、書く活動を多く取り入れることで児童が自分の思考を把握して積極的に発言できるようにした。